

篠山川のイシガメ 2018-2022 年 ～イシガメを増やそう計画～

小嶋心希※1※2・小嶋敏誠※2・谷口真理※2・三根佳奈子※2（※1 神戸海星女子学院高等学校、※2 自然回復淡水ガメ調査員）

はじめに

「昔は当たり前にかかっていたイシガメがいつの間にかアカミミガメになっていた。」と感じている人が多いのに、日本全域でどの程度のアカミミガメが侵入しているか、イシガメがどこに生き残っているか、という基本的な情報が少なかったため、当時の須磨海浜水族園亀崎直樹園長が市民参加型調査を企画（谷口・亀崎、2011）。私たちは家族で2010年8月から参加し、加古川の上流である篠山川で淡水ガメの調査を始めた。



写真1 罠（もんどり）の設置と回収

方法

2010年から2017年までは篠山川の支流を中心に調査し、2018年からは篠山川の本流（監物橋周辺）に場所を変更して調査した。調査期間はカメが冬眠から目覚める4月頃から冬眠準備に入る9月頃まで。ただし大雨や梅雨の時期は一時的に引き上げた。

カメ用のもんどりを一回に10-20個を設置し、設置中は毎日カメの回収と餌の補充を行った。餌は主にしししゃもを用いた。

捕獲したカメは観察、背甲長等を計測した後に、イシガメ、クサガメ、スッポンは元の場所にもどし、アカミミガメや交雑種は須磨海浜水族園や丹波篠山市に引き渡した。イシガメとクサガメは新しい個体が捕獲された場合はナンバリングし識別できるようにした。

今回は2018年から2022年の篠山川本流の調査について報告する。なお、2018年以前の結果に関しては小嶋他（2018）で報告している。

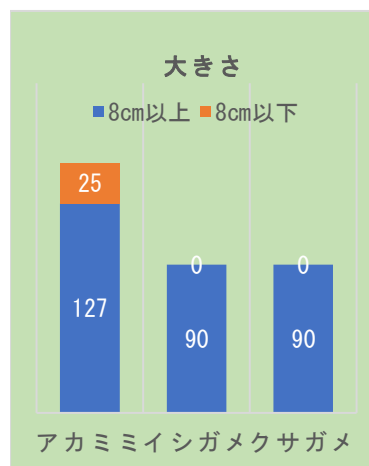


写真2 カメの計測

結果

5年間で合計358匹捕獲し、アカミミガメ152匹（42.5%）、イシガメ90匹（25.1%）、クサガメ90匹（25.1%）、スッポン23匹（6.4%）、交雑種3匹（0.8%）だった。アカミミガメを防除し、イシガメ、クサガメは元の場所に戻したが、5年間でアカミミガメ、イシガメの捕獲率はあまり変わらなかった。（表1）

背甲長8cm以下は幼体と定義し、幼体数をみたところ捕獲された幼体は合計25匹で、すべてアカミミガメだった。（グラフ1）



グラフ1 5年間合計数（大きさ別）

表1 2018-2022年の淡水ガメ調査結果（全数と背甲長8cm以下の幼体数について）

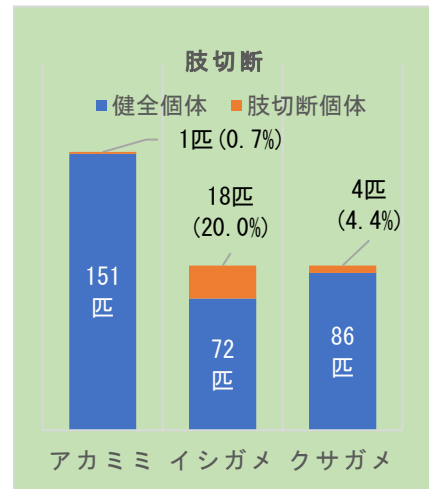
※もんどりを設置した合計日数を示す

	2018年 (82日間※)		2019年 (117日間※)		2020年 (89日間※)		2021年 (91日間※)		2022年 (84日間※)		5年間合計	
	全数	8cm以下	全数	8cm以下	全数	8cm以下	全数	8cm以下	全数	8cm以下	全数	8cm以下
合計	59		89		107		37		66		358	
アカミミガメ	22 37.3%	0	29 32.6%	5	44 41.1%	9	22 59.5%	2	35 53.0%	9	152 42.5%	25
イシガメ	13 22.0%	0	30 33.7%	0	25 23.4%	0	6 16.2%	0	16 24.2%	0	90 25.1%	0
クサガメ	18 30.5%	0	26 29.2%	0	31 29.0%	0	6 16.2%	0	9 13.6%	0	90 25.1%	0

中には肢が切断されたカメがいた。5年間でアカミミガメ1匹(0.7%)、イシガメ18匹(20.0%)、クサガメ4匹(4.4%)だった。(写真3、グラフ2、表2)



写真3 両前肢切断されたイシガメ



グラフ2 肢切断個体割合

表2 2018-2022年の淡水ガメ調査結果（肢切断個体数について）

	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		5年間合計	
	全数	肢切断	全数	肢切断	全数	肢切断	全数	肢切断	全数	肢切断	全数	肢切断
合計	59		89		107		37		66		358	
アカミミガメ	22	1	29	0	44	0	22	0	35	0	152	1 0.66%
イシガメ	13	5	30	3	25	4	6	2	16	4	90	18 20.0%
クサガメ	18	1	26	0	31	2	6	1	9	0	90	4 4.44%

肢切断の内訳（アカミミ：右前肢のみ1匹、イシガメ：両前肢と右後肢4匹、両前肢のみ7匹、右前肢のみ6匹、左後肢のみ1匹、クサガメ：左後肢のみ4匹）

考察

5年間調査して背甲長8cm以下のイシガメの幼体は1匹も捕獲されなかった。アカミミガメの幼体は捕獲されており、繁殖していると思われる。実際にアカミミガメを同じ場所で、5年間で152匹防除したが、捕獲されたアカミミガメの割合は減少していない。当面の間はアカミミガメとの競合を避けることができないと思われる。

また、イシガメはアカミミガメやクサガメよりも肢切断されている確率が高く、アライグマなどの攻撃を受けやすいと考えられる。当地でもアライグマの農作物被害の報告が多数ある。イシガメが産卵しても成長するまでに捕食されている可能性がある。

淡水ガメの寿命は約30年であり、10年後、20年後にはイシガメが絶滅してしまうのではないかと心配する。そのため、2021年から捕獲した成体のイシガメを安全な庭で飼育し、産卵させて、子亀がある程度生育してから放流することにした。2021年はオス3匹、メス3匹を飼育し、9月17日に8匹の子亀が誕生。子亀は室内で越冬させ、2022年9月に篠山川に放流した。2022年も同様に捕獲したオス3匹、メス3匹のイシガメを庭で飼育した。7-8月に産卵したと思われる、8月17日から9月30日に計18匹の子亀が誕生。現在元気に成長中である(2023年2月現在)。



写真4 孵化直後のイシガメ



写真5 2022年9月放流前のイシガメ(2022年捕獲個体と2021年生まれの生後1年の個体)

引用文献

- 小嶋心希・小嶋優希・小嶋敏誠. 2018. イシガメの危機 篠山市での淡水ガメ調査の報告. 亀楽15: 13.
- 谷口真理・亀崎直樹. 2011. 市民参加型調査「親子 de かめ GET」スタート. 亀楽1: 7-8.